



2025年
1月8日
No.A24-09

中東調査会は個人及び法人会員の賛助会費により運営されている非営利の公益財団法人です

中東調査会月間活動誌 (2024年12月)

1. 中東調査会主催の行事

(1) 中東情勢シンポジウム

・12月16日(月)、笠井 亮平 岐阜女子大学特別客員准教授、中馬 瑞貴 一般社団法人ROTOBO 主任、中西 久枝 同志社大学教授、青木 健太 中東調査会研究主幹、廣瀬 陽子 慶應義塾大学教授「中東ユーラシアにおける大国主導の連結性戦略を読み解くーロシア・イラン・インド等が協力する国際南北輸送回廊の実態ー」(於：ホテルグランドアーク半蔵門「華の間」)



<要旨>

各国は中東ユーラシアにおいて、どのような背景や考えをもとに連結性戦略を講じているのかについて、国際南北輸送回廊の事例を中心に、笠井亮平岐阜女子大学特別客員准教授、中馬瑞貴一般社団法人ROTOBO 主任、中西久枝同志社大学教授、青木健太中東調査会研究主幹より、各々、インド、ロシア、イラン、ユーラシアの視点から講演がなされた。

続くパネル・ディスカッションでは、討論者の廣瀬陽子慶應義塾大学教授を招き、青木健太研究主幹のモデレーターによる進行のもと、パネリスト4名による討論が行われた。

今回のシンポジウムは、中東ユーラシアにおいて大国主導の様々な連結性事業が交錯する構造的背景や、国際南北輸送回廊の動向が地域・国際情勢に与えるインパクト等について多角的な考察を図るとともに、参加者との間で活発な意見交換を行った。

(2) トップ・ミーティング

・12月12日(木)、岸田 文雄 前内閣総理大臣「日本外交に思うこと」(於：オークラ東京)

<要旨>

首相在任中のおよそ3年間で取り組んできた内政、外交上の成果や、国際秩序における米国の役割等を説明し、今後の日本の外交政策について展望した。



(3) 中東要人講演会

・12月18日(水)、ムハンマド・シュタイエ前パレスチナ首相「パレスチナの今」(於：日本記者クラブ)



<要旨>

講師より、現在のガザ危機を受けたパレスチナ及びイスラエルの動向、またシリア情勢を受けた域内諸国の動向などについて説明があった。以上を踏まえて、二国家解決の実現に向けた今後の展望について説明がなされた。質疑では、米国の中東和平への取り組みやパレスチナ西岸地区とガザ地区との関係等につき質問がなされた。

(4) 中東情勢オンライン講演会

・12月23日(月)、黒宮 貴義 駐アフガニスタン大使「タリバーン政権発足から3年が経過したアフガニスタンの現状と国際社会との関係」(Zoom形式)



<要旨>

大使より、タリバーン政権の諸政策や国際社会との関係、アフガニスタン経済状況等について詳細な説明がなされた。質疑では、政府承認をめぐる動きやエネルギー事情、アフガニスタンの鉱物開発、米国の動向等につき質問がなされた。

・12月24日(火)、高岡 豊 中東調査会協力研究員、中島 勇 中東調査会協力研究員、青木 健太 中東調査会研究主幹、金子 真夕 中東調査会主任研究員、高尾 賢一郎 中東調査会研究主幹「シリア情勢の展開と影響」(Zoom形式)



<要旨>

各研究員より現在のシリア情勢について、シリア、イスラエル、イラン、トルコ、サウジアラビアの視点から報告が行われた。質疑では、新政府と西側諸国との関係やシリアのロシア軍基地をめぐる動向、トルコ・イラン関係への影響等につき、多数の質問がなされた。

2. 中東調査会の活動

(1) 中東トピックスの発行【会員限定】

・2024年12月号(2025年1月8日付)

1. シリア：シリア：新生シリア軍の将官・佐官に外国人のイスラーム過激派が多数任用される
2. トルコ：フィダン外相がシリアの新政権指導者と会談
3. イラン：シリア政権崩壊への対応
4. イスラエル：ガザ戦争12月の動き 軍事的勝利の達成と内政の不安定化
5. イエメン：対イスラエル軍事行動の継続を表明
6. エジプト：2024年のスエズ運河収入が前年比で60%減少
7. アフガニスタン：パキスタン軍が越境攻撃を実施し複数死傷

※内容はホームページをご参照ください。

(https://www.meij.or.jp/trend_analysis/topics/)

(2) 中東かわら版の発行

- ・No.102「シリア：シャーム解放機構によるアレppo占拠」(協力研究員 高岡豊、12月3日)
- ・No.103「イラン：シリアにおける戦闘再燃への対応」(研究主幹 青木健太、12月3日)
- ・No.104「レバノン：停戦発効後もイスラエルによる攻撃が続く」(協力研究員 高岡豊、12月4日)
- ・No.105「トルコ：シリア・アサド政権の崩壊とトルコへの影響」(主任研究員 金子真夕、12月10日)
- ・No.106「シリア：シャーム解放機構のダマスカス制圧後の情勢」(協力研究員 高岡豊、12月10日)
- ・No.107「シリア：各勢力間の争奪が加速」(協力研究員 高岡豊、12月11日)
- ・No.108「シリア：引き裂かれるシリア」(協力研究員 高岡豊、12月17日)
- ・No.109「イラン：ハーメネイー最高指導者の

シリアを巡る発言」(研究主幹 青木健太、12月18日)

- ・No.110「カタール：13年ぶりとなるシリアとの国交再開」(研究主幹 高尾賢一郎、12月24日)

(<https://www.meij.or.jp/kawara/>)

(3) イスラーム過激派モニターの発行【会員限定】

- ・No.18「イスラーム国ホラーサーン州」がターリバーン幹部を殺害」(12月19日)
- ・No.19「月刊イスラーム過激派の動向：2024年11月」(12月20日)

※内容はホームページをご参照ください

(https://www.meij.or.jp/trend_analysis/monitor/)

(4) その他の活動

- ・東京外国語大学が開講する単位認定科目「国際社会をひもとく B/中東を理解するキーワード」へ当会研究員が出講した。

- ①「イラン：近現代における西洋との関係と革命後の政治体制」(研究主幹 青木健太、12月4日)
- ②「マグリブ諸国：社会経済問題と抗議デモ」(主任研究員 高橋雅英、12月11日)
- ③「リビア：紛争における諸問題」(主任研究員 高橋雅英、12月18日)

3. その他

(1) 要人往来

- ・3日、藤井外務副大臣は、チュニジアのナフティー外務・移民・在外チュニジア人相と会談した。
- ・3日、藤井外務副大臣は、エジプトのアブドゥルアティー外務・移住・国外移住者相と会談した。
- ・15日、船越外務審議官はイランを訪問し、タフトラヴァーンチ政務担当外務事務次官と

会談した。

- ・26日、岩屋外相は、イスラエルのギデオン・サアル外相と電話会談した。

(2) 外務省人事

- ・12月3日(火) 離任
駐カタール大使 前田哲
- ・12月10日(火) 発令
駐オマーン大使 芹澤清
駐イエメン大使 中島洋一

4. 2025年1月の予定

- ・1月22日(水)、8:30~10:00、於：オークラ東京プレステージタワー7階「メイプル」、トップ・ミーティング(岡野 正敬 外務事務次官「2025年の日本外交の展望」) ***法人会員限定**

※やむを得ない事情により、日時や会場が変更になることもございますのでご了承ください。また、この他にもイベントを開催することもございます。詳細等と併せまして、配信メールやHPをご参照ください。

(<https://www.meij.or.jp/event/>)

*会員の皆様は、どなたでも会員限定ページをご覧になれます。

*ログインに必要なIDとパスワードは、御社の当会担当窓口にお問い合わせください。